

現代の家族に贈る

# 「この時代の家庭と子育てに必要なこと」

## —愛情を注ぐこと—

—前号では、ラジオ放送についてお聞きしました。今回は、講演会ではどういったテーマで話しをされているかをお聞かせください。

金子 講演会では「この時代の家庭と子育てに必要なこと」という大きなテーマを掲げてお話しします。今と昔はずいぶん違ってきています。昔は、「親の背中を見て子は育つ」と言いましたが、今、子どもが見ているのは親の背中ではないですね。

### —スマホを見ていますね。

金子 そうですね。スマホを見て育ちます。少し前まではテレビでしたね。スマホから学ぶことは、あまりいいことではないわけです。子どもには見てほしくない、というものがあふれています。もしかしたら僕にはまるよいうな、危険なサイトもあります。ですから今、親たちは何に気を付けて子育てをしなければいけないかを、お話しします。



私が書いた本には、子どもを育てるのに必要なこととして三つの柱をあげています。

一番目は、愛情です。今は、親の背中を見ていない時代になりました。そうすると、親の愛情をどこで感じ取ることができるか。親は、子どもを愛していると思っているのですが、子どもには伝わっていない。子どもにそれが伝わっていないければ、愛情なんて感じないわけです。子どもと関わって、子どもが愛されていると感じられなければ伝わりません。ですから、愛情がどんなに大切なものであるかが一つの柱です。

二番目は、どうすればそれが子どもに伝わるか、ということ。時間と感動の共有が大切です。でも子どもと親は親しいだけではないか、と言うとそういうものではない。親は知恵や知識を身に付けていて、子どもに教えることができる。子ども時代を自分が経験している。子どもにとっては、大先輩です。経験しながら、後悔、反省も含めていっばい教えることができるわけです。

三番目の柱は、親のリーダーシップです。親には権威が必要だ、ということは今の時代忘れられ、放任主義の子育てがこの20〜30年世界中で流行っています。なるべく子どもたちにやりたいことをやらせよう。その方が、子どもの個性が伸びてゆく。のびのびと育てましょう。…。それについては、私も大賛成です。しかし反面、親や学校の先生の権威を確立することは、とても大事だと思います。

そして、本を書いた後、各地で講演会をするようになって、気が付いたことがあります。それがもう一つの柱です。私たちはどうしても子どもより先にいなくなってしまう。

—そうですか、他の人だけではなく、自分も愛することができない人たちが結構いますね。人から愛されないと、自己肯定感も足りなくなる。自分の存在価値が関係してくるんじゃないでしょうか。

金子 そうですね。自分が愛されなかったということは、「自分が親にとって価値のないもの」だと思えます。その自分を愛することとは難しいですね。しかも、愛そのものが分らない。

ある家で、高校生で里子になった女の子が「私がいなくて淋しい？」とよく聞くんだったそうです。朝、学校に行くときお母さんに「行ってきます。ねえ、お母さん、私がいなくて淋しい」と聞くんです。お風呂に入るとき、「淋しい」と聞きます。トイレに行くときまで、「お母さん、淋しい？」と聞くんです。お母さんは、自分がいないと淋しく思ってくれるか、ということなんですね。

—それは、幼児期で味わっていないのはならないことです。高校生でそう言われると、里親の方にはショックで、どう対応したらいいんだろう、となりますね。その方はどうされたんですか。

金子 手を握って、「淋しいよ」とそのたびに言っただけです。

### —私はそこまで愛情がないかもしれませんね。

金子 普通、自分の子どもだったら、小さい時から愛情を受けていますから、そこまでする必要はないですね。



す。ですからその前に子どもたちにバトンタッチしておくことがあるわけです。それは人生の幸せの鍵は何かを教えてあげることです。

### —全部で四本の柱になるわけですね。

金子 はい。ではまず、第一の柱、愛情についてお話ししたいと思います。

### —愛情について、いろいろのような形でお話しされているのでしょうか。

金子 まず、最初に例話をあげます。昔、13世紀の、神聖ローマ帝国にフリードリヒ二世という王様がいました。彼は、非常に好奇心が強く、いろいろなことを知っていたが王様でした。そもそも、動物園は彼が作ったと言われています。彼は、人はどのように言語を生み出したかを知りたいと思ったんです。「赤ちゃんは抱っこされて、親や兄弟たちから声をかけられて音を吸収し、やがてそこにある法則をつかみ取って話すことができるようになっていくのでは・・・。そうするとだれも赤ちゃんに話しかけなかったらどうなるのか。我々と全く別の言語を話し出すのか。それとも一切話さないのか？」と興味を持って、権力があるものだから、国中から生まれたばかりの赤ちゃんを50人集めてきて隔離し乳母たちをやとって、この赤ちゃんたちにミルクを与え、おしめを替えたり、お風呂にいれたり、してほしいと伝えました。しかし、世話をする時話しかけたりしてはいけない。目を合わせて微笑んでもいけない・・・。そうしたらベッドに寝かされたままで、ミルクを与えられ、衛生管理をされていた赤ちゃんは、1か月、2か月たつうちに、ほとんど顔色が悪くなり、やせ細っていったんです。50人のうち、1人も、1歳の誕生日を迎えることができなかつたそうです。これは、歴史上の事実です。

